



一般社団法人
日本発達障害ネットワーク

発達障害児等に対する支援の質は保障されているか ～障害児支援事業所における外部評価の必要性について～

日本発達障害ネットワーク

本セミナーの登壇者

- 内山登紀夫

日本発達障害ネットワーク副理事長
大正大学心理社会学部 臨床心理学科教授

- 稲田尚子

帝京大学文学部心理学科准教授

- 尾崎ミオ

NPO法人東京都自閉症協会副理事長
一般社団法人Get in touch理事

セミナーの内容

- 講義1 内山登紀夫

国内外の第三者評価の概要と開発した「外部評価」について

- 講義2 稲田尚子

国内での「外部評価」の試行における成果と課題について

- ディスカッション 内山登紀夫、稲田尚子、尾崎ミオ

「外部評価」が支援の質の向上に寄与する可能性について

国内外の第三者評価の概要と 開発した「外部評価」について

内山登紀夫



障害“児”支援をめぐる課題

- 現在、日本全国には約57万3千人の障害児が存在し、その数は年々増加傾向
- 2012年4月の児童福祉法の改正により児童福祉法に根拠規定が一本化され、施設・事業の利用者増加や民間企業としての事業増加

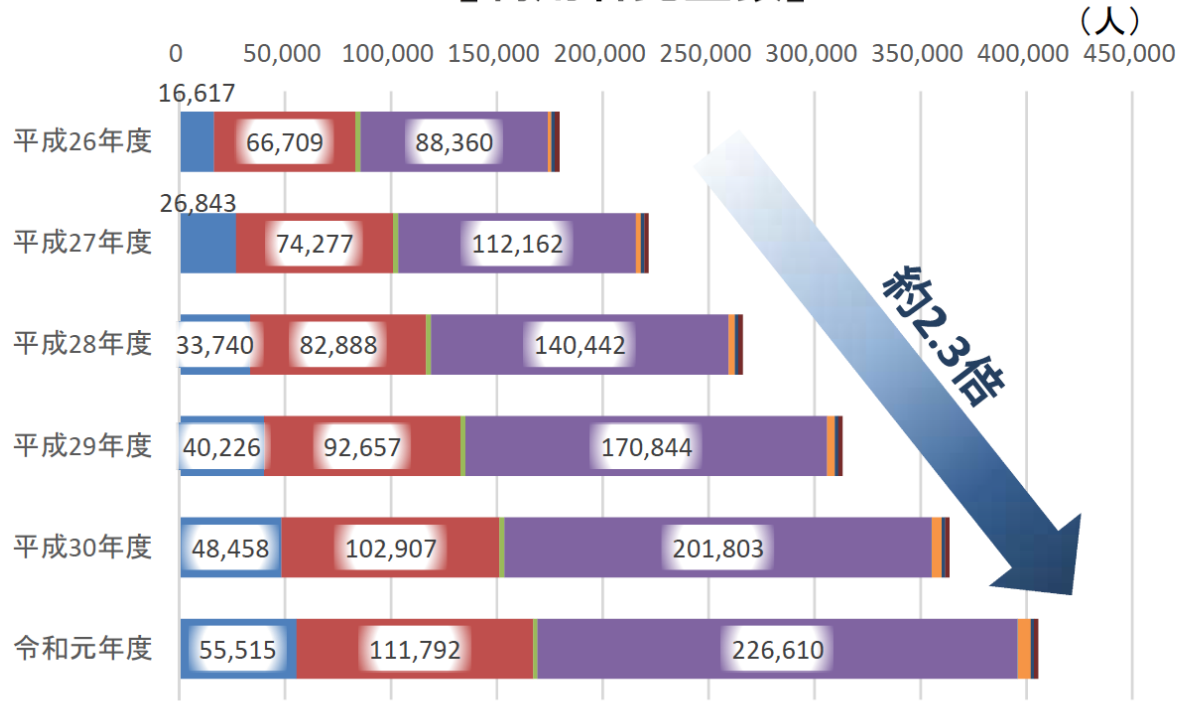
障害“見”支援をめぐる課題

- その結果、施設や事業所における支援の質が課題となる

(稲田・渡辺・内山、2020)

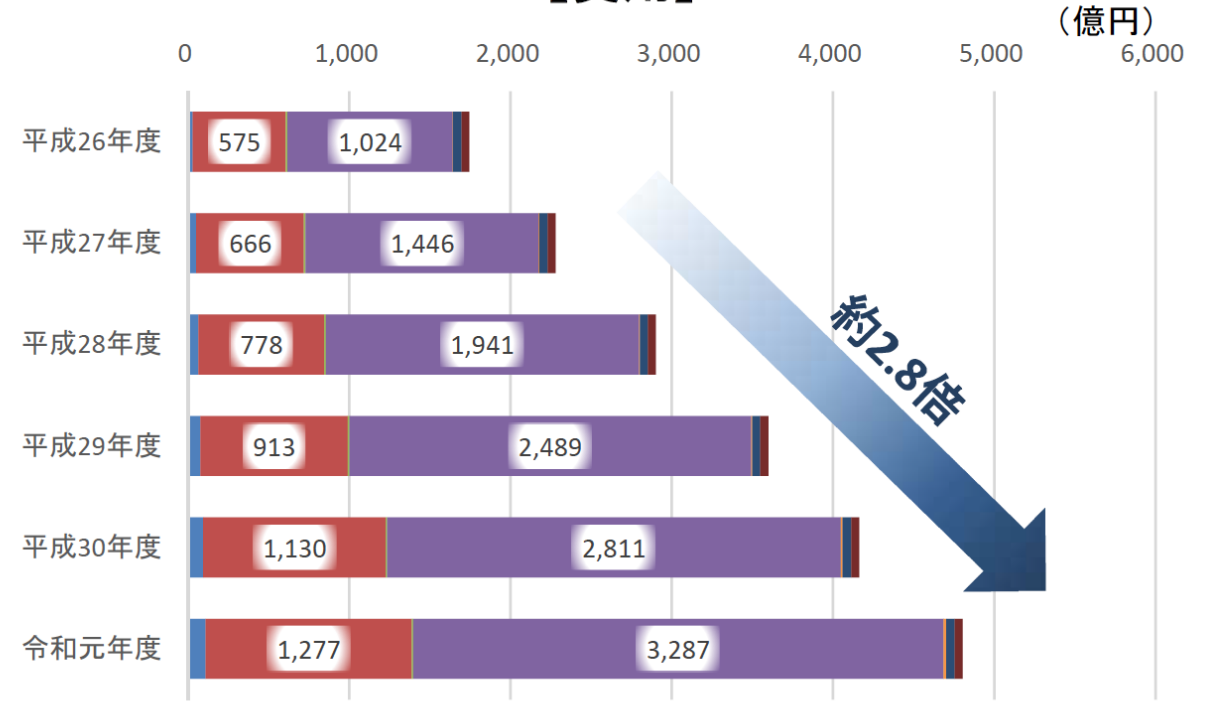
- 現行の第三者評価は、障害児支援の質の向上に寄与しているか？

【利用者児童数】



- 障害児相談支援
- 児童発達支援
- 医療型児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 居宅訪問型児童発達支援
- 保育所等訪問支援
- 障害入所支援
- 医療型障害児入所支援

【費用】



- 障害児相談支援
- 児童発達支援
- 医療型児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 居宅訪問型児童発達支援
- 保育所等訪問支援
- 障害入所支援
- 医療型障害児入所支援

障害児通所支援の在り方に関する検討会 第2回(R3.7.5) 参考資料4

第三者評価の仕組みの検討

- 文献研究や国内外の第三者評価機関の訪問・面接調査等による仕組みの比較

直接インタビュー

英国：Ofsted、CQC、NAS — 現地で幹部・担当者とヒアリング、受審者、評価者へのインタビュー

スコットランド：the Care Inspectorate — 幹部へのヒアリングおよび招聘し国内研修会

日本：医療機能評価機構、児童発達支援協議会、全社協、東京都福祉サービス評価推進機構事業者、利用者

第三者評価の仕組みの検討

- エキスパートへの面接調査による

「質の高い評価」と「現在の課題」の解明

英国の第三者評価の結果の提示例

利用者に分かりやすい結果の表示

評価結果の証書 ホームページでの掲載 施設は外部へ結果を発信（垂れ幕や看板で）



日本の第三者評価の課題（1）

- 医療評価機構、ジョイントコミッション（日本医業コンサルタント協会）を参考
 - ー 経営コンサルタントからの発想が基盤

日本の第三者評価の課題（1）

■ ISO9000に準拠

－供給者に対して製品の品質規格だけでなく、製造工程・品質管理体制までも含めて、所要の品質を作り出し、維持するための品質システムの構築

➡ 経営コンサルタント、品質管理からの脱却が必要

日本の第三者評価の課題（2）

- 時代に適合した支援理念の反映が不十分
 - － 利用者の権利擁護、QOLの保証
 - － 施設内虐待の防止
 - － 放課後等デイサービスなどへの児童福祉サービスへの対応不足

日本の第三者評価の課題（2）

- 項目選定過程が不透明

- －特に説明がなく、誰が、どのような方法で作成したのか不明

➡ 時代に適合し、時代や状況に合わせて柔軟に対応できるシステムが必要

日本の第三者評価の課題（3）

■ 普及が不十分

- － 受審率が低い：事業所側
- － 利用率・認知度が低い：利用者側
- － 受審結果の活用不十分
- － 受審費用の負担と受審に係る事務的負担
- － 第三者評価機関数の都道府県格差

現行のインセンティブ

- － 監査の頻度の減少
- － 受審費用負担
（東京都など）
- － 通達

➡ 受審およびその結果の活用を工夫し、受審率と認知度を高める必要

利用者のニーズは？

- 「良い」事業者をどうやって見分けるのか？
 - ー特に放課後等デイサービス、児童発達支援
(他のサービスは実質的に利用者が選択するのは困難)
 - 保護者の知りたいのは、どのような支援がされるのか？
でも…第三者評価は、そもそも知られていない
- ➡ 第三者評価と利用者のニーズのミスマッチ

事業者のニーズは？

- 外部からの視点で助言が欲しい
 - ー 内部のメンバーだけでは気がつかないことがあるのでは？
 - ー これでいいのか不安だが、どうしたらいい？
- グッドプラクティスを知りたい
 - ー 他の事業所はどんなことをしているのか？
 - ー もっと良い支援がしたい！

事業者のニーズは？

でも…第三者評価は、コンサルテーションは提供しない

➡ 第三者評価と事業者のニーズのミスマッチ

どのような転換が必要か？

- 『外部評価』と現行の第三者評価、監査との区別の明確化
- 利用者・事業者のニーズにマッチした『外部評価』

ニーズにマッチした外部評価

「品質管理」から事業者支援、利用者の自己決定支援へ

- 障害“見”支援に特化した、障害と障害特性を強く意識した評価
- 事業者・利用者にとってわかりやすい結果提示

ニーズにマッチした外部評価

「品質管理」から事業者支援、利用者の自己決定支援へ

- サービス内容の改善を支援するような臨床的評価

- ・ 評価で終わらない
- ・ 障害特性に配慮した**臨床的コンサルテーション**も視野にいれる
- ・ 「監査」とは異なる

これまでの経過

2017
年

- 文献検討
- 国内調査・海外調査
 - 全社協第三者評価、東京都福祉サービス評価推進機構、日本医療機能評価機構
 - 英国（英国：Ofsted、CQC、NAS）
スコットランド：the Care Inspectorate

これまでの経過

2018
年

- 理念と項目作成
 - 外部専門家のアンケート、聞き取り調査会、利用者へのアンケート
- 40事業の外部評価トライアル

2019
年

- 項目や手順の修正
- 100事業の外部評価トライアル（コロナ禍により84事業）

外部評価の6つの理念

1. 子どもは、合理的配慮を通じて最大の利益を受けている
2. 子どもは、専門的な知識と経験に基づいた支援を受けている
3. 子どもは、一人一人の個性と能力に応じた支援を受けている

外部評価の6つの理念

4. 子どもは、**本人のライフコース**※が考慮された支援を受けている
※人生で辿っていく道筋のこと
5. 子どもは、**ソーシャルインクルージョン**が意識された支援を受けている
6. **家族**は、障害のある子どもの**子育てにかかわる適切な支援**を受けている

外部評価の枠組み

実現可能性・事業所の負担を考慮

- 訪問チームの人数：2名
- 評価者の所要日数：事前のやりとり + 訪問 1日
+ 報告書作成・事務局との合議 0.5日
- 事務局の役割：事業者・評価者からの質問への対応
合議による総合評価決定・報告書確認と送付

外部評価システム

事前

- 事業者の自己評価

訪問

- 事業者の面談・個別支援計画書等書類の閲覧
- 支援の現場の観察
- 本人・保護者との面談・アンケート調査

事後

- 評価報告書作成（長所の抽出と改善に向けての支援）
- 外部評価事務局との合議・総合評価の決定

評価項目

項目カテゴリー	項目数
A 事業所の体制	6
B 基礎知識とスキル	3
C アセスメントに基づく支援	14
D 個別支援計画	8
E 支援環境の整備	17
F 連携およびソーシャルインクルージョン	9
G 家族支援	9
H 支援のアウトカム	6

評価項目の例

E. 支援者の専門性：支援環境の整備 一個に応じた支援

- ・ 子どもの環境は、**障害に応じた整備**がされており、また必要な道具が準備されている
- ・ 事業所は、それぞれの**活動エリアと活動の流れ**が子どもにとってわかりやすいように明瞭化された支援環境となっている
- ・ 子ども一人一人は、**過剰な感覚刺激に晒されない**ように、環境上の配慮がされている
- ・ 子ども一人一人は、必要に応じて**個別の部屋や場所の使用**が認められている
- ・ 子ども一人一人は、支援者から**穏やかな声や表情で対応**されている
- ・ 子ども一人一人は、自分が**理解できる**ように支援内容と方法についての**情報提供**を受けている

各項目の評定：4段階評価

3

日常的に達成できている；
よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

2

達成できていることが多いが、達成できてない部分や状況がある；
3に向けた取り組みに余地がある状態

1

時々、部分的に達成できている；
3に向けた取り組みにかなりの余地がある状態

0

全く達成できていない；
1以上の取組となることを期待する状態

9

非該当

報告書作成

報告書の構成

1. **アセスメントと目標**設定
2. 支援目標を達成するための**具体的な支援**
3. 支援の成果と利用者の**満足度**
4. **総括**



総合評価：事務局との合議による5段階評価

S

特に優れている

A

優れている
(改善の
余地が部分的
にはある)

B

改善の余地がある

C

改善の余地が大きい

D

明らかに水準に達していない

外部評価の目的

臨床サービスの質を高めるための

事業者と利用者を支援するシステム

研究助成および研究分担者

本発表は以下の研究助成を受けて行われました。

- 平成29－30年度 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）障害児支援のサービスの質を向上させるための第三者評価方法の開発に関する研究
- 令和元年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（身体・知的・感覚器等障害分野）障害児支援のサービスの質の向上のための外部評価の実施とその検証のための研究

研究分担者（五十音順）：安達潤（北海道大学）・稲田尚子（帝京大学）・宇野洋太（大正大学）・小澤温（筑波大学）・齊藤真善（北海道教育大学）・堀江まゆみ（白梅学園大学）堀口寿広（国立精神・神経医療研究センター）・松葉佐正（熊本大学医学部附属病院）・渡辺顕一郎（日本福祉大学）

謝辞

本発表にかかると調査にご協力頂いた、お子さまとその保護者様、事業所、関係者の皆様に深謝いたします。